



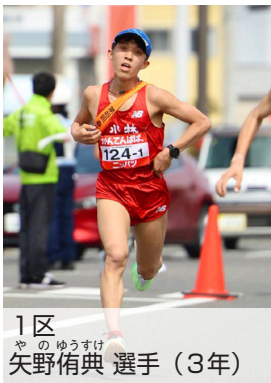
春の高校伊那駅伝で初優勝

# 小林高校 日本一!



3区 たけたかよし 選手(2年)

4区 いわたたけし 岩田健志 選手(2年)



5区 うえだみちる 上田充琉 選手(3年)

1区 やのゆうすけ 矢野侑典 選手(3年)



2区 あかさきかいと 赤崎海太 選手(3年)



6区 たにやまりょうた 谷山凌太 選手(3年)

※学年は5月時点

3月22日、長野県であった男子第49回春の高校伊那駅伝で小林高校駅伝部が2時間7分59秒の好タイムで見事初優勝を飾りました。

各校の新チームが競う同大会は、春の高校駅伝日本一決定戦とも呼ばれ、全国から137チームが出場。レースは、序盤から手に汗握る展開となりました。

全体の流れを作る重要な区間である1区でトップと50秒差の17位と粘り強い走りを見せると、2区、3区と順調に順位を上げ、タスキは4区の岩田選手へ。

最長区間(9・1キロ)で26分41秒という見事な走りを見せ、区間賞を獲得。首位に躍り出ました。

岩田選手は「自分の区間

で絶対に先頭に立つという思いがあった。いつも以上に足が動き、ラストスパイトで競り勝って、安心した気持ちでタスキを渡せました」と力走を振り返ります。

勢いに乗ったチームは5区でリードを広げ、6区の谷山主将が歓喜のゴールテープを切りました。

「タスキを受け取った時はプレッシャーもあったが、仲間が1位でつないでくれたので、絶対に抜かないという気持ちでスタートした」と話す谷山主将。

続けて、「自分たちは春と冬の日本一を獲得チャンスがある唯一のチーム。応援してくれる方々の思いを背負い、冬の優勝に向けて頑張る」と意気込みました。

昨年12月の全国高校駅伝では18位と悔しい結果に終わった同校。上原将平監督は今回の優勝を弾みにさらなる高みを見据えます。

「目標は48年ぶりとなる冬の都大路(全国高校駅伝大会)での日本一。伊那駅伝の優勝チームは都大路でも高い確率で上位を獲得している実績があるため、今大会での優勝を目標に取り組んできた。冬には、市民の皆さまに元気を届けられるよう引き続き頑張ります」と力強く語りました。

48年ぶりの日本一という大きな夢に向かって駆け抜ける小林高校駅伝部。冬の都大路へ向けて、市民一丸となって熱い声援を送りましょう。